

北海道合鴨水稲会

水かき通信

年頭にあたり

代表世話人 浅野 晃彦

明けましておめでとうございます。

昨年は、春の雪融けも早く、夏場は幸い北海道は大きな災害にも見舞われず、秋も穏やかな気候で推移したためか、稲作においては量、質共に満足のいく結果になった生産者の方も少なくないのではないのでしょうか。

しかし、米を生産していく上で、将来の食糧政策を放棄してしまったかのように思える信念の無い政治状況や、バブルのツケが一気に吹き出してしまったような不況の中での、消費の低迷は生産者の強い向かい風となっています。

また、合鴨水稲同時作によって栽培された米は、安心良質な農産物とし

て、道内に広がる個々の生産者を核とした消費者との強い信頼関係でつながった“安心ブランド”だった訳ですが、全体的な米の販売価格のダウンの中で、前述のような信頼関係を持った消費者を開拓する事は、容易では無くなってきている事も現状です。

更に、米の販売の低迷から、合鴨水稲同時作のもつクリーンなイメージを利用して、利益のみの追求に走り、当会の基本理念の中心をなす“生産者、消費者が共に信頼関係を築き、環境および子孫に対し責任ある行動を取るために情報を交換し合い、同じ考えを持つ者同志、和を作り、連帯していく”という主旨を理解さ

れない行動が増えてきたという話を聞くにつけ、今一度、会の基本理念の確認と生産者としての自覚とプライドを大切に、誰にでも誇れる合鴨水稲同時作の在り方を模索して行かなければならないと思います。

昨年、夏の圃場見学会において訪問した剣淵高校や、昨年より合鴨水稲同時作を始めた旭川農業高校など、単に生産技術としてだけでなく、教育の場で総合的な人間教育の実践として合鴨水稲同時作が注目されている事は大変嬉しいことであり、北海道合鴨水稲会としても大いに協力していきたいと思えます。

その為にも先に述べたように、再度、基本理念の確認を会員の皆様をお願い申し上げます。

それと、もう一つのお願いが全国大会についてです。昨年の総会で全国

大会の開催について皆様の了承を得たわけですが、全国組織との調整の結果、平成 12 年度 (2000 年度) 開催の方向で話が進んでいます。

つきましては、多忙な中、大変な事と思いますが、会員相互の協力を頂き、充実した大会が開かれるようお願い申し上げます。昨年暮れに米の関税化実施が決定し、輸入自由化ということになっていく訳ですが、各会員の皆様には合鴨水稲同時作によって築かれた相互の絆をいっそう深め、生命の根っこである農業への理解者を増やし、国内農業の大切さや、環境保全を実践の中から訴えていく事を併せてお願い致します。

最後に会員及び御家族の皆様の益々の御健勝をお祈り申し上げ、年頭の御挨拶と致します。

第 4 回圃場見学会報告

大窪 宗磨

第 4 回を迎える圃場見学会が昨年 7 月 6・7 日に行われました。両日も天候に恵まれ、気温も 30 度を記録していました。今回の見学場所は、1 日目が剣淵町の絵本の館と北海道剣淵高等学校の圃場、2 日目が当麻町の糸田さんの圃場でした。

参加人数は、32 名と回を重ねる度に数を増やし、北竜町の川本さん、中富良野の太田さんと共に農業について多くの事を学んでいる実習生の富貴さん、後藤さんら女性の参加に加え、北大農学部 3 年生の木村君、坂本君と元気いっぱいの学生が参加

してくれ、参加者の平均年齢をぐんと下げてくれました。今回は、第 3 回目の七飯町での圃場見学会集合の時のようにスピード違反で捕まるといった惨事もなく、絵本の館の前で笑顔で再会することができました。

絵本の館は、昭和 19 年に建設された旧役場庁舎を平成 3 年に「ふるさと創成資金」により改修され、町民が一体となって「絵本によるまちづくり」を目的として創設されたもので、現在世界各国の絵本をその数 1 万 8 千冊以上保管する施設となっています。

二つ目の見学場所は、校訓に「学行一致／自主協同／誠実健康」を掲げている剣淵高校の圃場でした。



「地元のために、地元の子供たちを育てたい。そして、何よりも心の優しい子供を育てることが第一の目標であり、アイガモを使った教育は

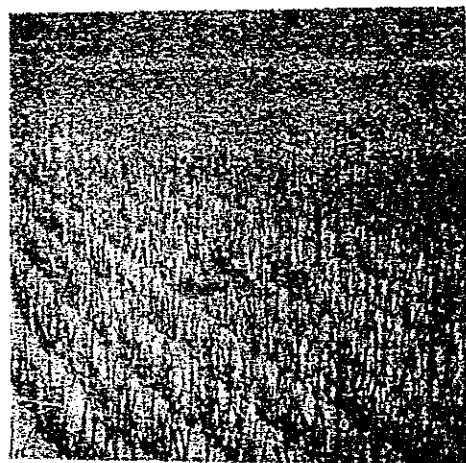
生き物の成長を通して心豊かな子供が育つことを目的とした教育の具体的実践」と水戸渡洋二校長が合鴨水稲同時作を高校で行うことの意義について説明され、船瀬敏朗教諭からは OHP を利用して剣淵高校での合鴨水稲同時作実践の 3 年の経緯を話してくださいました。



剣淵高校を去り当麻町温泉施設へルシーシャトーに移動後、恒例の宴会。有限会社当麻グリーンライフさんからの差入れしていただいたオリジナルの日本酒が、参加者を饒舌にしてくれ、宴たけなわに夜が更けていきました。相変わらず、悪酔い、飲過ぎの方もおりましたが…。すいません。

次の朝、爽快に目を覚ますことなく、二日酔いに苦しみながらも、糸田さんの圃場へ。糸田さんの圃場の緑の鮮やかさによって、目を覚まさせて頂きました。さすが、7 年の経験

が際立つ！皆、絶賛せずには見られないと同時に自分の圃場に戻って稗を抜かなければと刺激を与えてくれる 素晴らしい圃場だと感じていたようです。

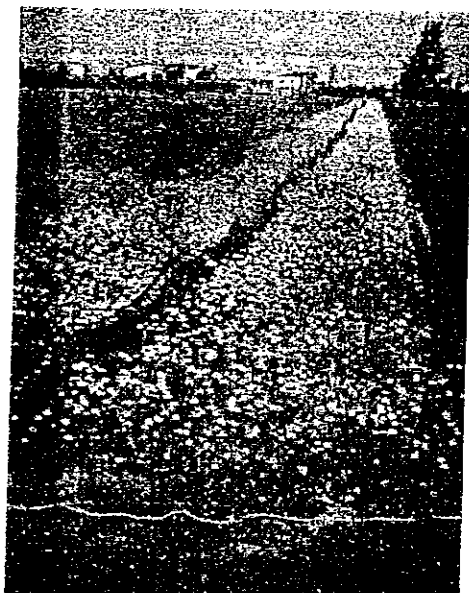


その後、JR 石北本線当麻駅舎内の有限会社当麻グリーンライフさんの直売店「アグリステーション TOHMA」を訪問。皆、思い思いの物を買っていました。そこで、浅野会長のあいさつ、そして総会で再会できることを期待し、解散しました。

今回の圃場見学会は、生産技術を持ち合って交流するという以上に、アイガモが人々の生きる糧である米に関わることで私たちに教えてくれたことを持ち合う機会となったのではないのでしょうか。



広がるアイガモによって結ばれる輪。異なる地域に住み、アイガモに何かしら関係をもつ人々が集まれる機会の圃場見学会。こういったことを通して、北海道合鴨水稲会は形式的な団体ではなく、人と人が強く結ばれる団体を築こうとしていることが肌で感じられました。



(北海道大学農学部大学院生)

遺伝子組み換え作物の輸入本格化の中で急がれる

飼料自給型畜産の確立と食生活の転換

三島 徳三

昨年 10 月上旬、アメリカ中西部のコーン・ベルト地帯（ミネソタ州、アイオワ州、イリノイ州）の農業を視察する機会が与えられた。ここはトウモロコシと大豆の輪作地帯であり、経営面積 1,000ha を超える穀作大経営が多数存在しているが、一部ではトウモロコシや大豆粕を利用した養豚や肉牛肥育と穀作との複合経営が営まれている。

このコーン・ベルト地帯にいま、遺伝子組み換え作物が猛烈な勢いで広がっている。すでにトウモロコシの 5 割、大豆の 3 割がこれに置き換わっていると言われるが、2～3 年中にこの 2 品目における遺伝子組み換え作物の割合が 8 割を超えるのは確実な情勢である。その理由を探るのが今回の視察目的の一つであった。結論的に言うと、アメリカの農業者が遺伝子組み換え作物に飛びつく理由は、その経済性が優れているからである。

いまアメリカ中西部で広がっている遺伝子組み換え作物は、殺虫性のある土壌中の B T 菌を組み込んだ、通称「B T コーン」と、除草剤に耐

性のある「ラウンドアップ・レディ大豆」である。二つとも世界有数の農薬メーカー、モンサント社が開発し、同社にパテント料を支払った複数の種子会社が増産し、熾烈な販売競争を繰り広げている。

在来の種子に比べ、遺伝子組み換えの種子の価格は 3 割から 6 割くらい高い。だが、遺伝子組み換え作物は、種子代金の高さをカバーして余りあるメリットを農業者に与えている。

第一に遺伝子組み換え作物の単位面積当たり収量が高いことである。視察農家からの聞き取りによれば、通常の大豆のエーカー当たり収量は、50～55 ブッシュルだが、「ラウンドアップ・レディ大豆」の収量はこれより 2～4 ブッシュル多い。また、通常のとウモロコシのエーカー当たり収量は、160～185 ブッシュルだが、「B T コーン」のそれは 20 ブッシュルほど多い。

もっとも、遺伝子組み換え作物自体が高い収量性をもつわけではない。大豆においては播種・生育後にモンサント社の除草剤「ラウンドアップ」

を散布すれば雑草は枯れるが、「ラウンドアップ・レディ大豆」は枯れない。そのため、雑草に栄養分を奪われただけ、大豆は順調に生育し、収穫量は多くなる。また、「BTコーン」では、トウモロコシの子実を食い荒らす「ヨーロッパ・コーン・ボア」を殺す遺伝子を組み込んであるので、虫害にほとんど会わない。それだけ、収量が高くなるというわけだ。

第二に、遺伝子組み換え作物は農薬の使用量が通常の作物にくらべて少なく、農薬代が少なくてすむ。視察農家の事例では、通常の大豆の農薬代（主に除草剤）はエーカー当たり30ドルだが、「ラウンドアップ・レディ大豆」の場合、半分の15ドルですんだ。大豆の生育後に除草剤をまいても、「ラウンドアップ・レディ大豆」は枯れない。そのため、雑草を重点的に退治できるので、除草剤の散布回数と量は減る。

また、通常のトウモロコシには虫がつきやすく、平均すればエーカー当たり15～16ドルの殺虫剤がかかるが、「BTコーン」には殺虫剤が不要で、除草剤以外の農薬代はほとんどかからない。

要するに、遺伝子組み換え作物は収量性が高く、農薬代が少なくてすむというわけだ。加えて農薬散布の

ための労働や経費が減る。「BTコーン」においては、虫害がないので、トウモロコシを収穫せずに畑においておいても倒れることはない。そのため、収穫作業も時間をおいて行うことができる。農業者にとっては良いことづくめである。

日本では遺伝子組み換え作物に対して、主に消費者団体が、その食べ物としての安全性や自然生態系への影響を問題にしている。だが、アメリカ農業を動かすのは経済の論理であり、経済性が優れ、農業者に現にメリットを与えている遺伝子組み換え作物に反対する理由が分からない。日米がこれをめぐって論争している間にも、遺伝子組み換え作物は全米にどんどん広がり、在来の品種を探すのが難しくなっていくであろう。

問題は、わが国では、トウモロコシの100%、大豆の97%を輸入に頼っていることである。しかも、輸入の7～8割はアメリカからなされている。この状態が変わらないかぎり、日本人は、遺伝子組み換えの大豆を使う製品（食用油、味噌、醤油、納豆、豆腐など）と、その大豆粕および遺伝子組み換えのトウモロコシをエサとして食べる家畜の腹を通し、安全性に疑問のある作物を直接・間接に口に入れざるを得ないのだ。

それを避けるにはどうすればよいのか。アメリカが遺伝子組み換え作物の普及をやめない以上、わが国としてはこれらアメリカ産のトウモロコシや大豆を消費しない体制を緊急につくらなくてはならない。1960年までの日本では、アメリカからのトウモロコシや大豆の輸入はほとんどなかった。まだ、畜産物や油脂を大量に消費する食生活になっていなかったからである。

欧米的食生活が広がった今日の日本で、かつての伝統的な食生活に戻すことはほとんど不可能に近い。だが、健康面への配慮から少しずつではあるが、伝統的な食生活への回帰も一部の自覚的な消費者を中心に始まっている。

雄紀のちよつといい話

～折坂家の出来事～

坂本 雄紀

本当にそこで働いたていたのかどうかも自分で分からなくなるぐらい昔のようで、あの田んぼの畦で寝そべっていたのがほんの前のようにも感じられる、そんな不思議な気持ちを僕に抱かせてくれた1ヶ月間の折坂家での農家見習い。

先日、アイガモ君を受け取りに折

同時に追求しなくてはならないことは、日本人の食生活に欠かせない大豆生産を復興させるとともに、国内で自給可能な飼料資源に基盤を置いた、日本型畜産の確立をはかることである。

北海道や府県山間地の草資源を利用した放牧主体の酪農や肉牛経営、エサ米の増産とこれを用いた養鶏・養豚、廃棄物として捨てられている残飯を利用した養豚・肉牛、山地放牧の養豚、そしてアイガモ水稲同時作。これら飼料自給型の畜産の確立は、他方における食生活の転換—安全な食生活は日本の大地と海から—とともに、いま急いで目指すべき課題なのである。

（北海道大学教授、北海道合鴨水稲会顧問）

坂さんの家を訪れて、勝手見知った農村風景が一面真っ白に様変わりしているのを見た瞬間、思わず「ただいま」とつぶやいている自分がいました。折坂さん一家と過ごした今年の夏は、僕にとって第二の故郷ができた一生忘れることのできない季節となりました。

お世話になった折坂さんとの出会いは、7月上旬の合鴨水稲会圃場見学会でのことでした。北大の先輩たちの話術にのせられ、興味本位で参加した同級生の木村と僕を、「うちに草取りのバイトで来ないか？」とこれまた巧みに誘ってくれたのが折坂さんでした。すぐにでもお世話になりたい気持ちを抑え、大学の前期の授業を終えた8月上旬に、二人で浦臼町を訪れました。その夜は、九州にいたことがある折坂さんに芋焼酎、奥さんには実家を離れ久しく味わうことがなかった手料理で歓迎され、心地良く酔わせて頂きました。また、採りたての新鮮なミニトマトの味も忘れることができません。一体いくつ食べたんだろう？

翌朝から、いよいよ田んぼの草取り開始。主にアイガモ君が食べ残して大きくなってしまった稗を取り除く作業をしたのですが、今まで水の張った田んぼに足を踏み入れたことのなかった僕にとっては、とても新鮮な体験でした。また、農薬を撒いていないおかげで（アイガモ君の住処であるから当然なんだろうけど）素足で作業できたことも、僕にとって驚くべきことでした。しかし、その感慨にふけっているのもつかの間で、僕たちを待ち受けていたのは、稗の大群。最初は、稲と稗の区別が

さっぱり分からず、引っこ抜いて初めて稲とわかり、おどおどしてしまうことも度々ありました。折坂さん、ごめんなさい。



田んぼの外からは一見あまりないように見える稗でも、一度田んぼに入り腰を下げて目を稲と同じ位置に合わせると結構あるもんです。抜けども抜けども前に進まず、また後ろを振り返ると見落としていたりして引き返したりといった作業の繰り返し。一日の作業を終えた後は腰がガタガタで、こんな調子で明日も身体が持つのだろうか、木村と二人で風呂上がりにマッサージをしながら弱気になっていました。でも、やっぱり仕事をやり終えた後の夕飯のうまさといったらなかつたです。折坂さんとの音楽談義も大いに盛り上がりました。

次の日。やはり身体は正直で腰の疲れは残り、作業におけるペースダウンは明らかでした。一つの田んぼ

でも畦に近い部分は比較的アイガモ君が奮闘してくれたのか草も少なく、調子良く進んだのですが、中心に向かうにつれ雑草の数も多くなり、ペースもみるみる内に落ちて、弱音を吐きそうになりましたが、そんな時は相棒木村と励ましあったり、歌を歌ったりして気を紛らせることができました。一人での作業だったらどうなっていたらと思うと、田んぼの中に相棒がいてくれて感謝、感謝。



自分たちで1つの田んぼの草取りを終えたとき、言葉では表現できない達成感が胸に込み上げてきました。と同時に毎日のようにこういう作業をしている農家の方々の仕事の大変さを、多少は肌で感じとれました。

その後も僕は1ヶ月ほど折坂さんの家にお邪魔して、水田の水切りや、かぼちゃ・ジャガイモの収穫などいろいろ農作業を手伝いましたが、すべてが初めての経験で、失敗の連続でした。早朝寝ぼけ眼で畦草刈りを

して水田の用水管を破裂させたときは、冗談抜きで逃げ出したいくなりました。真っ青な顔で報告したのを今でもはっきり覚えています。

1ヶ月そこそこの体験でしたが農業と家族というのは切っても切れない関係にあるのだなあとしみじみ感じました。経営主である主人がいて、それを支える妻と子供達、そしておじいちゃんとおばあちゃん。みんなの協力があって初めて多忙な1年を乗り越えられるのだなあと。僕自身農作業で疲れているときに、子供たちが学校から帰ってきた時の「ただいま」、「おかえり」のたった一言のやりとりだけで、とても元気を与えられたような気がします。子供って本当に不思議なパワーをもっている

んだなあって、そういったことも折坂家で学んだような気がします。

この夏の体験で、来年は1年間を通して農作業してみたくになりました。この1ヶ月間の農作業で自分自身ができなくて悔しかったことがたくさんあったので、それを来年にはできるようになりたいです。また、お米というのがこういった農家の方々の不断の努力から生まれるものだというのを、多くの消費者に知ってもらうにはどうしたらいいのかということも考えていきたいと思います。

(北海道大学農学部3年生)

事務局より

□第5回総会及びフォーラムのお知らせ

2月7日に第5回総会及びフォーラムを、滝川市総合福祉センター（滝川市明神町1-5-29）にて開催します。今回は「育もうあたたかい食と農」をテーマに農業関係者だけではなく、ひろく一般の市民を交えた議論をしたいと考えています。会員外の方の参加を、おおいに歓迎いたします。

□第9回全国合鴨フォーラムのお知らせ

2月26日、27日に京都府で全国合鴨フォーラム京都大会が開かれます。

日時：2月26日（金）午後1時
～27日（土）12時

場所：京都府立ゼミナールハウス

TEL 0771-54-0216

参加費：お一人様 3,500円

（懇親会等は別途費用がかかります）

□北海道合鴨水稲会入会案内

当会の主な活動は、総会及びフォーラム、圃場見学会、『水かき通信』の発行、全国合鴨フォーラムへの会員派遣等です。入会されますと、行事の案内状、『水かき通信』が届きます。入会は、年会費6,000円を納入すればできます。

□会費納入のお願い

99年度の会費6,000円を2月末までに以下の郵便振替口座に振り込んで下さい。同封した郵便振替払込書が使われますと、手数料はかかりません。

口座番号：02700-3-38241

加入者名：北海道合鴨水稲会

払込払出局：札幌北七条郵便局

編集後記

□木村&坂本と同様興味本位で見学会に参加したのが3年前。彼らが、この会とどのように関わっていくのか、楽しみ、楽しみ。

□やっぱり、あいがも君を屠殺する時、手が震えます。馴れないもんです。けれども、合鴨の薫製の味は、馴れちゃってしまいました。

うーん、困った、困った。

□実家に帰省する時、薫製がお土産です。親は、一年間の大学生活の成果を薫製の出来栄で判断とのこと。（大窪）

北海道合鴨水稲会 水かき通信 第7号

1999年1月1日発行

発行：北海道合鴨水稲会

〒060 札幌市北区北9条西9丁目

北海道大学農学部

農業経済学科農業市場学講座

宮入 隆・大窪 宗磨

TEL:011-706-4941

FAX:011-736-8633